

ダイバーシティ改革に関する考察

氏 名 鍛治 直美

指導教員 王 効平

技術革新やグローバル化が急進展してきた現代世界において、「価値観の変化」と「多様性の尊重」が強調され、日本社会における「ダイバーシティ」の実現が急務とされている。しかし、ダイバーシティを推進し、実現したい社会とはどのようなものか。これらの疑問に答えるべく、特に問題意識を持ってきた、「外国人人材の活用」と「女性活躍」に焦点を当て、ダイバーシティに関する研究を行うことにした。

本研究の目的は、先行研究や実態調査、ヒアリングを通じた分析を行い、グローバル化やダイバーシティの視点から日本企業の組織における課題を明確にし、持続成長促進の一助となるべくその解決策に関する政策提言を提起することにある。

労働人口の減少に伴い積極的に行われている外国人人材の雇用の現状について、公開データをもとに整理・分析を行った。先行調査から外国人人材が日本で活躍できていない要因として、企業や政府を含む日本社会の準備不足があげられ、外国人を日本社会におけるイノベーションやシナジーの源泉ととらえ、外国人に選ばれる国になるための抜本的な変化が必要であることを課題に挙げ、解明を進めた。

女性活躍の現状が思わしくない要因について公開データの分析とヒアリングによる実態調査をもとに明らかにした。日本における男性優位の構造が、女性の活躍を妨げている。また、ヒアリング調査から、女性自身が人生自己制限をかけず自身の価値観、特性を生かした人生を歩むことが「真の女性活躍」につながるということが明らかとなった。

「外国人人材の活用」と「女性活躍」の問題点には「文化的な要素や国民性」が生み出した資本主義的な「ビジネスモデル」が日本のダイバーシティを妨げる主な要素となっていることが分かった。また、ダイバーシティを実現し、日本にイノベーションを起こすことが、日本の成長に不可欠であることを理解し、イノベーションを起こすために、「教育の改革」と「制度の改革」を提唱した。

キーワード グローバル化 ダイバーシティ 外国人人材 女性活躍 伝統文化